

## 明石・遠征キャンプ

- 開催日 2019年8月13日～8月17日
- 会場 明石市立少年自然の家
- ディレクター名 小島菜奈子（ぴけ）

### ■キャンプのねらい

- この夏の最高の思い出を作ろう！！
  - ・自分たちで生活をし、計画立てて行動し、プログラムを満喫することで、キャンプでの生活を楽しむ。
  - ・自分たちで心地よい関係性を作る。

### ■同行スタッフ（キャンプネーム）

おぐしお、がみがみ、ぼると、みどる、むらじ、ラミ、りる、ロッキー

### ■活動内容

<1日目>  
集合、施設到着  
オリエンテーション  
観光計画①

<2日目>  
明石観光  
海岸散歩

<3日目>  
タコ飯づくり  
化石発掘体験  
観光計画②

<4日目>  
兵庫観光  
粉もんパーティー

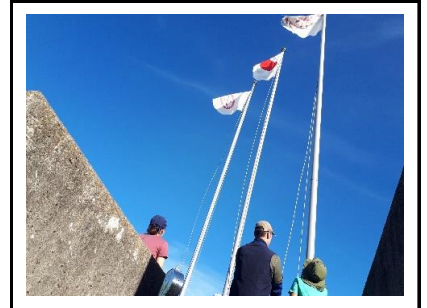
<5日目>  
観光ツアー報告会  
施設出発、移動  
解散



新幹線に乗車！片道4時間越え、まさしく遠征キャンプの始まりです。



初日は班対抗ゲームや、観光計画で仲を深めました。



2日目。自然の家の朝は『朝のつどい』からスタートです。



『舞子公園』へ出かけました。遠くに見える淡路島に大盛り上がり！



明石海峡大橋内に登れる施設も見学しました。



午後は海岸に散歩へ。だんだん仲も深まってきています。



ビーチフラッグ大会も行い、砂浜を思いっきり楽しみました。



3日目。明石名物『タコ飯づくり』に挑戦です。



手を真っ黒にしながら、一生懸命タコを捌いて調理しました。



午後はスペシャルプログラム『化石発掘体験』。みんな真剣です。



観光ツアー前夜。予算、時間、経路などをみんなで話し合いました。



4日目は観光ツアー！班のメンバーだけの冒険が始まりました。



無事目的地へ到着！姫路城ではお城のポーズで記念写真。



お昼ごはん決めも電車の乗り換えもみんなで相談して頑張りました。



最後の夜は『粉もんパーティー』。関西ならではのメニューに挑戦。



作って食べて、笑いの絶えないパーティーとなりました。



最終日。班ごとに観光ツアーの思い出を発表しました。



ついにお別れの時。5日間ありがとう、また会おうね！

## ■キャンプのエピソード

### 「観光はスポーツだ」

4日目に実施した観光ツアー。終了後のスタッフの感想が上の言葉でした。では、どんなところがスポーツのようなのか、観光中のエピソードを紹介します。

#### ①時間が無い！でもタピオカも飲みたい…

予定の電車まで残り15分、でもさっき見かけたタピオカが飲みたい。そんな中で子どもたちが決断したのはタピオカを買って1本後の電車に乗り、駅からダッシュで帰る！という選択肢でした。最寄り駅から猛ダッシュして何とか予定通り帰着。達成感も満足感もたっぷりでした。

#### ②並ぶ、並ばない？どうする？

神戸にあるトリックアート美術館へ向かったグループ。平日にも関わらず入場まで30分待ちとなっていました。並んでいると間に合わない。でもメインで楽しみにしていた場所。結局、こちらのグループも見学したのち大急ぎで戻ってきたのでした。

やりたいことにまっしぐら。移動は常にダッシュの観光ツアーとなりました。

### びっくりするほど仲がいい。

キャンプが始まってしばらくは、初対面だったり学年がさまざまだったりで話し合いも遊ぶのもどこかぎこちなかった子どもたち。しかし、日を追うごとにどんどん仲が深まり、3日目が終わる頃には、「子どもたちだけでもいつまでも楽しそうに話している」「こんなに仲良くなるんだなと思った。」とスタッフが夜のスタッフミーティングで発言するほどに班の仲が深まっていました。

やってきた最終日。新大阪駅で解散する仲間を見送るときや品川駅で最後に解散する時には、自然と子どもたち同士で握手をし「また会おうね。」と声を掛け合っていました。

キャンプでは班のメンバーのことを“同じ目標を持っている”という意味で『仲間』と表現することがよくありますが、今回のキャンプでの班のメンバーはまさしく『友だち』。どんなときも一緒に笑い、相談し、たまにはケンカしながら過ごした特別な『友だち』でした。

そんな『友だち』と過ごした2019年の明石での夏。みんなにとってとびっきりの思い出になっていたら嬉しいです。